

校内研だより

(令和5年) 2023. 11. 20 文責 ○○

【低学年ブロック：1年2組(○○教諭)国語「うみのかくれんぼ」研究協議のまとめ】

- ・「なに」「ばしょ」「とくちょう」「かくれかた」を、色分けをして書くようにしたことで、書く内容・順序を正しく意識して書くことができていた。低学年の児童には、視覚支援が理解を深めるうえで有効である。
- ・書籍の情報量を吟味し余分な情報をカットして、クロムブックを活用して同じ資料をクラス全員で使用できた。このことで、活動をしながらかくれんぼの考えを聞いて直ぐに直したり加除修正を容易に行えた。
- ・「かくれかた」と「とくちょう」のつながりを丁寧にしっかりと指導をして、児童が理解をしていたので、活動ですべき内容がよくわかって行っていた。
- ・活動の途中で、担任が理解すべき内容やポイントを押さえて指導をしていたので、集中をして活動に取り組んでいた。

【次回につなげたいこと】

- ・最後のまとめ方で、全員が活動できるような方法を取り入れていきたい。例えば、担任が進行役になって、インタビュー方法でクイズのように聞いていくなどして、みんなで共有できる場のもち方を工夫していきたい。

【第4回校内研究全体会：1年1組(○○教諭)国語「うみのかくれんぼ」研究協議のまとめ】

☆グループ協議

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">・1年生でもICTを活用できている。・児童の実態に合わせて視覚的支援をしていること。・「くちばし」から「うみのかくれんぼ」と単元のつながりがあり、学びの連続性がある。	<ul style="list-style-type: none">・情報の整理。(教師も児童も)・児童の考えの変容をみとることが難しい。・児童同士の共有の仕方。

☆次につなげたいこと

- ・成果の部分は継続できるように児童の実態に合わせた授業づくりをし、単元と単元のつながりを意識すること。課題の部分については、児童の考えの変容を見とれるように、書いたものは消さないよう声かけすることや、他人との比較ではなく自分との比較ができるように指導していきたい。

《指導助言…○○先生より》

○探究的な授業

- ・子どもの心に残るような授業をし、課題をさせられたという意識にならないようにする。今回の「うみのかくれんぼ」では日常的に「かくれんぼ」を探す姿をめざしたい。また、同時に並行読書では色・形・もぐつての隠れる本を紹介していて良い。

○図読させていくことが大事

- ・写真や図、絵で分かることが必要。「うみのかくれんぼ」では3枚の写真(場所・つくり・かくれ方)からさがすことができるように、情報をキャッチできるようにする。

○ICTの活用

- ・ICTはどんどん使っていってほしい。クロムブックで自分の考えを残しておくこと。今回の場合は、全部にラインを引いてしまっている子がいたが、それが分かったことが良くて、どう分析するのが大事。その記録をとり、振り返り、できたことを確認でき自信につながる。